



リサイタルの後に訪れたアビラの町。世界遺産とされた目を見張る城壁に囲まれたこの町は、中世の歴史がそのまま残されている。CD「たましいの歌」に収録されている『魂のうた』の作詞者、十字架の聖ヨハネ（ファン・デ・ラ・クルス）は、16世紀、この町において、真の靈的刷新運動に尽力した。

工藤篤子メールマガジン 44号 2004.02.20

●フランス歌曲レクチャー・コンサート（2月9日）●アレハンドロとの和解

スペインでの抜けるような紺碧の空、とまではゆかなくとも、一昨日から、ハンブルクは小春日のようなさわやかな青空が続いています。

皆様お元気でいらっしゃいますか？

スペインでのコンサートを無事終え、一週間前にハンブルクに戻りました。皆様のお祈りに心から感謝いたします！

♪フランス歌曲レクチャー・コンサート（2月9日）♪

パンプローナのナヴァーラ大学では、「詩を歌う」コンサートシリーズを開いています。そこではスペイン歌曲、ドイツ歌曲、フランス歌曲、イタリア歌曲、バロック音楽を、毎月、それぞれのテーマでレクチャー・コンサートを企画しています。私は、2月に行われたフランス歌曲のコンサートに招かれました。

私はスペイン留学当時、パリにも定期的に赴いてフランス歌曲の巨匠、ジェラール・スゼーにフランス歌曲を学びましたが、当時、ラヴェル、プーランクの全曲演奏、フォーレの2大歌曲集演奏等を手がけたことがあり、振り返ると、自分でも当時のフランス歌曲の勉強量に驚愕するほどです。

しかしながら、その後、念願だったスペイン歌曲のコンサートのチャンスが与えられるようになり、ドイツに移ってからは、話せるようになった言語のドイツ音楽の深みが理解できるようになったことを通して、ドイツ・リート勉強量が多くなりました。そのうち、それほど話せない言語のフランス歌曲は、遠い存在になってゆきました。

最近、音楽の生徒たちにフランス歌曲のレッスンをする際、自分の教えられる許容量の不十分さをも感じるようになっていました。今回のコンサートの準備をしながら、再びフランス歌曲の世界に目を覚まされることが多々ありました。そして、いろいろな意味で、学びの大きなコンサートとなりました。

皆さんにお祈りいただいた風邪ですが、コンサートの3日前に完治しました。それまで思うように準備できなかったため、久しぶりに緊張感をもって迎えたコンサートとなりましたが、本番では、一曲ごとに主への祈りとともに演奏を捧げました。そして、確かに主が導いてくださったとの確信が与えられたコンサートでした。

アンコール曲では、「私たちはひとりて聖なる道に入ります。それからは神と共に、ふたりで天のみ国へ入りましょう。」というフランスの童謡を歌いましたが、この曲の反響がたくさんありました。

それから、コンサートの二日後、なんとまた風邪をぶりかえしてしまったのです！（でも、今はすっかり元気になりましたので、ご安心くださいね。）このように、コンサートの前後の健康が守られ、主に導かれたコンサートを経験することができたのは、皆様のお祈りによるものであったと心から感謝いたしました。ありがとうございました！

●アレハンドロとの和解

アレハンドロは、スペインでよく一緒にコンサートをしてきた、大変優れた伴奏ピアニストです。けれども8年前、私たちは衝突し、以来共演するのをやめてしまいました。衝突というのは、とぎすまされた芸術家にありがちな一種特有のキャラクターに耐えられなくなり、あるとき私は憤慨して、「あなたがそのような態度を続けるなら、もうこれ以上一緒に演奏活動を続けることはできない！」と口走ってしまったことでした。

クリスチャンでありながら、しかも当時、教会の伝道師として主に仕える立場でありながら、私はこの時、自分の怒りをコントロールすることができませんでした。後で、あの怒りは、突然現れたものではなく、私が普段から主のみ前に持っていかなかった彼への憤慨の思いの積み重なりであったと気づきました。

とどのつまりは、自分のうちの小さな罪をそのままにしてきた結果、そしてみ霊の内に生きていなかった結果です。この日の夜、私は「怒っても、罪を犯してはなりません。日が暮れるまで憤ったままでいてはいけません。」のみことばに突き動かされ、アレハンドロに謝りました。けれども、その後、傷ついた彼の心はなかなかもとに戻りませんでした。私にできることは、謝罪の表示を繰り返すことのみでした。

スペインに行くたびに彼に挨拶の電話を入れました。日本からは時々絵はがきを出しました。そのうちアレハンドロも少しずつ普通に話すようになってゆきました。そして8年たって、やっと、私たちは再び一緒に共演することができたのです。しかも、お互いに、以前とは全く違った、思いやりと謙虚な態度で。そしてこの8年間、私の心には、以下のみことばがしかと刻み込まれました。

しかし、だれでも、聞くには早く、語るにはおそく、怒るにはおそいようにしなさい。人の怒りは、神の義を実現するものではありません。（ヤコブ 1:19,20）

あなたがたは、自分に関する限り、すべての人と平和を保ちなさい。（ローマ 12:18）

ちからの限り、見張って、あなたの心を見守れ。

いのちの泉はこれからわく。（箴言 4:23）

♪お祈りください♪

これから春のアメリカ、日本でのコンサートの準備にとりかかりますが、そのような中でも、霊的糧を補給するために、こちらで出来る限り、主との交わりの時を持ちたいと願っています。そのためにお祈りください。

ハンブルクの声楽の生徒、Nさんの救いのために。

彼女は、一昨年我が家で行っていた聖書の学びには参加していなかった人ですが、今ひとりで時々聖書を読んでいると、先月私にうち明けました。それで私は彼女にディボーションブックを渡しました。彼女は、今そのガイドブックと共に毎日聖書を読んでいるそうです。どうぞ主が日々みことばを通して彼女の内に語りかけ、救いに導いてくださるようお祈りください。

♪お知らせ♪

ミニストリーズの支援者の兄弟のご尽力で、素晴らしいホームページがほぼ完成いたしました！

これから変更してゆく可能性もありますが、どうぞご覧下さい。

アドレスは以下の通りです。

<http://www.gpm.cc/~kudo/>

先週お約束していました「ホロコーストの中国人」については、次回に報告させていただきます。

どうか皆様の日々の主との交わりが素晴らしいものでありますように。

主の愛と喜びが皆様の心に大きく注がれますようにとお祈りしています。

シャローム！

工藤篤子